



HOKKAIDO! ECO

地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を

地球にやさしい・エコプロジェクト



北海道も温暖化?



どんどん暖かくなっている北海道

例年以上に暑い日が多かった昨年の北海道。札幌では9月21日に最高気温31.1℃を観測し“北海道でもっとも遅い真夏日”の記録を86年ぶりに更新しました。またオホーツク海で観測される流氷も、過去30年間でゆるやかな減少傾向にあることが確認されています。データで見る限り、北海道の気候は少しずつ暖かくなっているようです。

地球温暖化と北海道の関係は……?

豊かな大地と夏の冷涼な気候を生かして農作物をつくり、冬は雪を観光資源として活用している北海道にとって、地球温暖化は大きな問題です。しかし道民1人当たりのCO₂の年間排出量は3.62トン（2003年）と、全国平均の2.69トン（同）に比べて約1.3倍にもなっています。つまりほかの都府県よりも地球温暖化を進行させているのです。

なぜ1.3倍も?



CO₂排出の原因は“冬の暖房”

北海道がより多くのCO₂を排出してしまう最大の原因は、ストーブなどの暖房機器です。冬が長く寒さの厳しい北海道はほかの都府県よりも暖房を使う期間が長く、灯油やガス・電気などのエネルギーをより多く消費してしまいます。また暖房の温度を必要以上に高く設定している家庭も多く、室内では冬でも薄着で過ごすのが一般的になっています。

自動車の利用率の高さも悪影響

“1.3倍”のもう1つの原因が自動車です。日本の都道府県でもっとも面積が広い北海道では移動の手段として自動車が利用される割合が非常に高く、当然ガソリンや軽油の消費量も多くなります。また大都市以外では公共の交通網があまり発達していないことや、一家で2台以上の車を使う“セカンドカー”の保有率が高いことも一因といえるでしょう。

1.3倍

地球環境ノート

VOL. 7

「北海道発・地球環境ノート」は、「地球温暖化」防止に向けた温室効果ガス6%削減を実現するために、世界・日本・北海道の環境の“いま”や今すぐ実践できる“地球にやさしい生活”をシリーズでお伝えします。

シリーズ7回目のキーワードは“1.3倍”

道民1人あたりのCO₂排出量を全国平均と比較すると1.3倍にもなります。

日本でもっとも豊かな自然に恵まれ、森や海に親しんでいるはずの北海道が、より多くの温室効果ガスを排出してしまうのはなぜでしょうか。

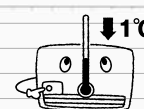
それは冬の暮らし方に原因があるようです。

春間近とはいえまだまだ寒い日が続く北海道。

この「地球環境ノート」をヒントに

北海道と地球の関係を考えてみてください。

どうすれば減らせる?



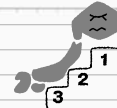
暖房の設定温度を1℃下げよう

CO₂の排出を削減する一番の方法は、暖房機器の設定温度を下げることです。北海道庁が推進している“北海道ウォームビズ・プロジェクト”ではオフィス暖房の設定温度を20℃に、家庭では設定温度を“1℃”だけ下げることが呼びかけられています。3月はまだ肌寒い日も多い時期ですが、地球温暖化防止のために「-1℃」を実践しましょう。

ドライブの時も地球にやさしく

自動車による温暖化の対策は2つあります。1つは電車・バス・地下鉄などの公共交通を利用すること。もう1つは“エコドライブ”を心掛けることです。10分以上の駐車時はエンジンを止めてアイドリングをストップ、発進の時はアクセルをふんわりと踏んでエンジンの過剰な回転を防止する。これだけで排出されるCO₂を大幅に削減できます。

温暖化で北海道はどうなる?



地球温暖化の影響が大きい北海道

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第4次評価報告書によると、地球温暖化による気温上昇はその地域の緯度が高いほど影響も大きくなります。つまり日本では、列島でいちばん北にある北海道がもっとも気温の上昇率が高くなるのです。さらに予測では、北海道の一部地域の平均気温は今世紀中に4℃も上昇するといわれています。

北海道の美しい自然を守るために

日本でもっとも雄大な自然に恵まれた北海道。地球温暖化が進行すれば、その美しさが永久に失われてしまうかも知れません。だからこそ、この北の大地に暮らすわたしたちにとって温暖化対策は大切なものになってきます。全国平均の1.3倍という数字を改善するためにも、毎日の暮らしの中からCO₂削減に取り組みましょう。

監修／小野有五（北海道大学・大学院 地球環境科学研究院教授） ※参考資料：宇宙航空研究開発機構 地球観測研究センターウェブサイト「地球が見える」、北海道環境局「2003年度（平成15年度）の道内の温室効果ガス排出実態について（概要）」、北海道「北海道ウォームビズ・プロジェクト」ウェブサイト、環境省「チーム・マイナス6%車の使い方で減らそう」、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第4次評価報告書

はじめよう
「地球にやさしい生活」

-1kg

リデュースでゴミを減らしてCO₂削減



いつの時代も「ダイエット」の話題は人気の的。美容と健康のために実践している方も多いと思いますが、今度は地球のために「ゴミのダイエット」を始めてみませんか？生活の中から出るゴミを減らし、限られた資源を大切に使うライフスタイルを「リデュース（Reduce）」と呼びます。

地球のためにゴミを“ダイエット”しよう!

ゴミを焼却処理すると、大量のCO₂が発生します。リデュースを実践すればその際のCO₂を削減できるだけでなく、ゴミの運搬時に消費されるエネルギーも同時に節約することができるのです。

またリデュースの効果は省資源＆省エネだけではなく、例えば紙の使用量や廃棄量を減らすことは、貴重な森林資源を保護することと同時に、森林によるCO₂の吸収の促進にもつながります。地球温暖化を防止するために、毎日のくらしを通してリデュースを実践しましょう。

参考資料：環境省「Re-Style」ウェブサイト

小野有五の伝言板



トータルアドバイザー
小野有五氏（おの・ゆうご）
北海道大学・大学院
地球環境科学研究院教授

本州の家が寒すぎる？

冬に北海道から本州に行って、ふつうの家に泊まるのはつらいものです。本州の家は、夏の暑さと湿気だけを考えて開放的につくられ、断熱などまったく考えていないからです。僕も東京生まれですが、冬の暖房はコタツだけでした。やがて小さいストーブなどを置くようになり、それがファンヒーターに代わりましたが、すぎ間だらけの家ではヒーターを切ればすぐに冷えてしまいます。関東でも寒い筑波にいたときの住まいはコンクリートのアパートの1階の部屋でしたが、さて、夜、一番暖かな場所はどこだったでしょう？

正解は、「冷蔵庫の中」。そう、北側の窓は内側から凍っていたのです。プラス5度に保たれた冷蔵庫の中が一番暖かでした。北海道のCO₂排出量が本州の1.3倍もあるのは、私たちが暖房し過ぎているせいだけでなく、本州の家が寒過ぎるからではないでしょうか。でも北欧では、なんと暖房ゼロの集合住宅ができています。壁を厚くして断熱を徹底し、昼間の太陽で温めておくと、北欧ですら暖房ゼロで暮らせるというのですから、まだまだ北海道の家も工夫が必要ですね。

小野有五